

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471200683
法人名	有限会社 みんなの家
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地 (電話番号)	宮城県登米市中田町宝江新井田字並柳前55 (電話) 0220-34-7464
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 12 月 18 日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 27 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	有() 円	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐幸医院、おおさか歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園の中に散見する住宅に溶け込んで「みんなの家」はある。闇の訪れにもなって浮かび上がったイルミネーションはクリスマスを彩るサンタやトナカイで、入居者と近隣住民の目を楽しませ、季節を感じさせる電飾である。「みんなの家」は『利用者の笑顔がみたい』という施設長と管理者の想いを実現させたもので、入居だけでなく在宅への手も差し延べたいとショートステイ(短期入所)とデイサービス(通所介護)が連携した施設になっている。入居者がこれまでの生活を継続しながら、これまで以上の安心と地域密着を維持し、地元ならではの人と人の繋がりを持って暮らせる家庭(ホーム)になっていることが確認できた。「世話する人とされる人ではなく、共に暮らしています」との職員の言葉が印象的だった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回で課題となったのは①運営に関する家族等意見の反映②意思の表出が困難な方の思いや意向の把握③重度化、終末期に向けた方針への協力医の同意、の3点である。①については第三者委員を委嘱した。②は東京センター方式の導入や1対1のコミュニケーションによる思いの把握に努めている。③では協力医の口頭での同意は得ているが文書化には至っていない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全員がそれぞれに書き出し、管理者が取りまとめて記入した。自己評価票を書くことで日頃の自分のケアを振り返ることができて客観的に見直す機会になった。日常に取り組めるようなことは即実践につなげた。パターンシートを導入して職員の意識づけに活かしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前回の外部評価の結果について運営推進会議で報告し、メンバーの協力を得て第三者委員を委嘱することができた。運営推進会議ではホームからの報告に始まって、予定されている行事などについて説明し、意見・提言などをもらい活発な話し合いが行なわれている。それらは運営に活かされている。メンバーが運営推進会議で取り上げてほしいことを把握するためにアンケートを実施したが、現状で満足している旨の記述がほとんどだったという。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問した際に聞くように努めている。どの家族も疎遠になることなく訪問してもらえるように配慮して、話し方などに留意している。相談・苦情の窓口をホーム担当者として重要事項説明書に記載するとともに壁へ掲示している。第三者委員の委嘱はしたが追加の表記はしていない。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育所の子どもたちや演芸ボランティアの慰問は入居者の楽しみになっている。入居者は保育所の子どもたちへのプレゼントを作って来所を待っていた。近隣住民が「制作・工作」の講師になることもしばしばという。ホーム行事の夏祭りには登米高校の生徒が準備から当日まで手伝いをしてくれたという。「流しそめん」では「子ども会」を交えて賑やかに行った。地域住民を招待して野外での「茶会」も催された。町内会への加入はないが、老人会の方々がお茶を飲みに来るなど「お隣さん」の関係ができていく。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念は「明るく、ゆったり、落ち着いて生活、その人らしく自由に暮らす、家族や地域とつながる」である。グループホーム独自の理念については検討していない。今後、自分の住みたいところをイメージして理念をつくりたいとしている。	○	入居者が地域の中でその人らしく暮らし続け支えていくことの重要性を十分に理解しており、地域との関係性を重視したケアに努めている。しかし、グループホーム独自の理念の作成には至っていない。ホームが大切にしていることを職員自身の言葉で「理念」に表現していただきたい。今後に取り組みたいとしていることから期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	既存の「理念」が玄関に張っており、月曜日には復唱して確認しあっている。今日することを押し付けることなく、みんなで決めて、共に暮らす「寄り添うケア」に心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の学生が「みんなの家の歌」をつくってくれたことに象徴されるように、演芸ボランティアの訪問や保育所、子ども会、各学校との交流、地域交流会の開催などのほか、茶道・生け花・制作の講師ボランティアなど、入居者の活動支援に地元の人々が活躍してくれている。近隣の見守り協力もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価の意義や目的を説明し、コピーした自己評価票を全員に渡して書き込んでもらった。それらをまとめて記入した。成果としてはパターンシート(水分、排泄、睡眠、活動、ヒヤリハット等を記録)の導入がある。職員の意識づけにつなげたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回に課題となった「第三者」について運営推進会議で相談し、メンバーである区長に委嘱することができた。午後7時から始まる会議だがメンバーの意見や質問が活発に交わされ10時を超えることもめずらしくないという。地域防災組織への参加や介護保険の勉強会などメンバーの提言が運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市は家族や職員を対象に講演や研修を開催しており、職員がフォーラムのパネリストとして意見を述べたこともある。入居者の申請に関することや運営等についても積極的に相談している。資格取得の実習の受け入れを行っており、相互の理解とサービスの質の向上に役立っている。		
sikaku					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度の請求書の郵送に合わせて「通信」「金銭管理状況」「入居者の状況と写真」を報告している。家族が訪問した際には入居者の様子について話している。日常での変化については電話にて随時報告している。職員の異動は「通信」に掲載して知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に入居者の様子を報告すると同時に、不安や意見がないか聞くように努めている。苦情相談窓口について「重要事項説明書」に記載するとともに壁に掲示してあるが、ホームの担当者および市担当課のみである。第三者委員の委嘱はあるが表記はされていない。	○	家族とのつながりを大切にして、繰り返し訪問してもらえるように配慮されているが、家族の中には遠慮して率直な意見を言い難いこともあることを理解し、外部者へ安心して表わせる環境をつくっていただきたい。第三者委員と国民健康保険連合会を重要事項説明書に追加記載するとともに家族への周知もお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが併設のデイサービスやショートステイからである。当事業所の特徴でもある全事業所が一体となったケアに取り組んでいるため、ホームの入居者は日常的に職員と交流があり、職員の異動を感じさせない生活が確保できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の全研修について対象者を指名して積極的に派遣している。職員の自己目標を把握してその達成に沿う支援を行なっている。職員の資格取得も奨励しており、経費を負担して受験し易い環境を整えている。また、施設長によるサービス向上を啓発する情報提供などの働きかけも頻繁に行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会、ケアマネージャー協会に加入しており、交換研修も行なった。ホームが行なう内部研修会には近隣の施設にも案内し参加を得た。住民への案内をすることもある。向上意欲が盛んで事業所の枠をもたない姿勢は地域の認知症ケアの拠点として評価できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する方は前段階で併設のデイサービスやショートステイを利用されており、職員や入居者と面識もあり活動も一緒にしていたので、家族も本人もホームに馴染み安心納得した上入居されている。地域によく理解されており、住み慣れた地域の中で継続して暮らすことができている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は生活歴を活かして自発的に調理、裁縫など得意分野を手伝っている。人生の先輩として教えられる場面をつくり、持てる力の発揮を引き出せるよう配慮している。世話する人、される人ではない「ともに生活している」ことに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を用いて情報の共有をしている。日々のケアの中で会話、表情、雰囲気を感じ取り、その日、その入居者が何をしたいか把握している。引継ぎや会議においても入居者の意向を取り上げてケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題やケアについて個別の介護計画が作成されている。作成した計画書は家族の同意を得るとともに手渡している。介護計画にはアセスメントやモニタリング、ケース検討の情報が活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週、曜日を決めてケアカンファレンスとモニタリングをそれぞれ行っている。入居者ごとに実践記録や目標達成状況、効果などを見ながら、3ヶ月に一度介護計画書の見直しを行なっている。そのほか変化に応じて随時見直しをしている。尚、見直しに際して家族からの同意を得る前段で意向の確認をしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスやショートステイとの交流や行事は日常的に行なわれている。通院、申請代行、帰宅、入院時の面会、墓参りや買い物など入居者の必要と希望に応じて支援している。料理講習や認知症ケアセミナーなど家族や地域住民の参加を得て開催している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から家族の希望でホームの協力医療機関に替えた方がほとんどである。付き添いは職員が行なう。それ以外のかかりつけ医への通院を家族がする場合は自宅まで送迎を行なっている。受診の結果は家族へ報告するとともにケース記録に残し、医師の指示や助言をケアに活かしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームが作成した「看取りに関する指針」がある。看護師を配置し、協力医と連携を図っている。入居時には家族への説明も丁寧に行なわれている。今後、ホームができる事、できない事を状況に応じて段階的に話し合える環境になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者には「さん」をつけて呼んでいる。居室の出入りは声を掛けてからする。トイレなどの誘導の声掛けは、他の入居者に配慮して目立たないようにする。個人情報や記録文書は目に付かない場所に保管し、情報が入ったパソコンはパスワードでアクセスするよう管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入浴、食事など、ホームでのだいたいの流れはあるが、入居者の習慣や意向に配慮して支援することに心掛けている。入居者が笑顔でいられることを生活の尺度としている。散歩、買い物、飲酒が自由にできる。入居者の希望に応じて家族の協力をいただくこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の通所介護事業所の栄養士がメニューを作成している。自家栽培の野菜や近所からいただいた食材を入居者のアイデアを取り入れて調理するなど、下準備から下膳まで入居者と一緒に行っている。主食は選択も取り入れおり、嚥下力や医師の処方に応じた食事を用意している。外食も喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めていない。体調や状態に応じて好きなときに入浴することができる。夜間に入浴することもできる。仲の良い入居者同士と一緒に入浴することもある。入浴しながら入居者には声がけの時刻を変えたり、散歩に行くなど環境や言葉を変えるなどして誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や外食、誕生会、カラオケなどイベント時はみんながはたつする。飼い犬の世話を自分の役割にしている入居者や縫い物、洗濯たみ、調理など日々の生活の中で自分の役割をもっている。生活歴を活かした「干し柿」「柿の渋抜き」は柿を取ることからした。気晴らしにはドライブで対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3回の買い物や随時の散歩に出掛けている。歩行が困難な入居者はシルバーカーや車椅子を使用する。通院の機会に自宅へ寄ることもある。季節を肌で感じる周辺へのドライブは入居者の意見で決まるなど、天気や気分によっていつでも外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。身体拘束について学んでおりケアに活かしている。入居者の状態については常に把握しており、外出しそうな時は声掛けや一緒に行くなどしている。また、地域はホームをよく理解しており見守りの協力体制ができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自での防災に関する研修や訓練を毎月行なっている。夜間を想定しての避難訓練は2度行なった。自動通報システムの設置と点検も行なっている。飲料水、食糧の備蓄もある。今後、消防署立会いでの訓練や地域防災組織との具体的な協力体制の確立もしていただきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューで栄養のバランスを考慮したものとなっている。水分、排泄、睡眠、活動、ヒヤリハットなどをパターンシートに記録し入居者の状態把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は来客用と入居者用との2つがあって使い分けられている。古民家のような天井の高さがあり、実面積よりも広々とした空間になっている。オープンキッチンと一体化した食堂兼居間から続くウッドデッキには、白菜が干してあったり干し柿が吊るされ季節が感じられた。室温、湿度、換気は一定に保てるよう自動管理になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やたんす、作品など入居前からの馴染んだものを置いている。入居者の好みの物はいつでも目に入りやすい場所に置くなどの配慮をしている。車椅子使用の居室は身体機能にあわせたベッドの利用や事故を防ぐために床の片付けに留意している。		